

不安だからこそ、タブーにしない

# 子どもとしたいお金の話

「大学進学時が教育費のピーク」といいますが、具体的に何にどの位かかるのか、わからなくて不安な方も多いのでは？そして親子でお金の話ってなんとなくしにくい…でも不安だからこそ、親子で調べたり、話し合ったりしてみませんか？

未来の選択肢を広げる

## 親子マネー対話のすすめ



「言っちゃダメ」では、子どもの可能性を制限してしまうかも？

ページ監修



マネーフォワード  
執行役員 CoPA  
(Chief of Public Affairs)  
兼 Fintech研究所長  
**瀧 俊雄**さん

たきとしお ● 1981年東京都生まれ。慶應義塾大学経済学部を卒業後、野村證券入社。スタンフォード大学経営大学院、野村ホールディングスの企画部門を経て、2012年よりマネーフォワードの設立に参画。規制改革推進会議専門委員等を務める。

重くのしかかる学費問題、「慌てて当然」です！

親子でお金の話ができない。そんな家庭は少なくありません。お金の話ばかりすると卑しい人間になりそう…と感じる方もいるでしょう。しかし「変化の激しい時代。今は就職したとしても、一社に一生勤め続けるとは限らず、節目節目で『どんなキャリアを選択するか？』と自分の意思が問われます。誰かに答えを委ねず、自分が大切だと思うことを信じて選べる力が必要。その一歩目が、自分という資産を育てるための『学費』の選択なのです」(瀧 俊雄さん、以下「内同」)。とはいえ、一歩目としては金額も大きく、子どもの将来を左右しそうで、どう話してよいかと悩むのも当然です。親子でどんな対話ができるといいか、お話を伺いました。

# 1

## 子ども本人が 意思決定しやすい場づくりをする

「お金の準備」に焦る前に  
最終的に選ぶのは、子ども

進学費用は親にとってももちろんですが、子どもにとっても想像がつかないほどの大きなお金に見えます。そのため自分の思いを伝えるのも遠慮しがちに。

「教育費とは『かけた分のお金をすぐに取り戻せるか』と短期的に考えるようなものではないことを前提に、大学での学びを基にどのような職業を選んで生計を立てていくか、と長い目で考えてみるとういでしょう。そのうえで大事なのは、学費を出すのは大抵親だけ、自分の教育機会を選択する主体は子ども自身であること。高校生といえども、18歳で成人を迎えるのですから、自分の人生に責任をもって選ぶべきです」

真っ先に「お金をどう準備するか」を考えがちですが、子ども自身はどんな体験や学びにお金をかけたか、意思を先に聞いてあげること、子どもの主眼的な進路選択にもつながるかもしれません。

### 例えばこんな対話を…

(学習塾のCMなどをみて)

**親** そういえば、大学の学費って入学料とかもあわせてこのくらいかかるみたいだよ。

(26ページの「進学先によってかかるお金」の記事を、ぜひ一緒に読んでみてください)

**子** え~~~~!! こんなに?

**親** びっくりするよね。でも、大学で学んだことを基に将来働いて、収入を得ることができれば、お金をかける価値があるんじゃないかな。

**子** うーん。いくらだとかける価値があるんだろう。全然わかんない!

**親** あなたはどう思う? どんな学びや、体験に、どれくらいお金をかけたい? お金のつくり方はあとで考えるとして、まずあなたはどうか、教えてほしいな。

**子** う~~~~ん。考えたことなかった…。

**親** じゃあ、まずはそこから一緒に考えてみようか。



具体的な金額も子どもと確認。

# 2

## 何にお金を使う? || 大学生生活の解像度を上げる。

自分がお金をかける理由を  
自分に説明できるように

子どもが自分のお財布から5000円使って、化粧品を買ったとします。なぜそれに5000円かけるか。自分らしさの表現のため、などそれぞれに理由があるでしょう。「お金を使う理由に良い悪しはなく、このためにお金をかけるのは自分にとって妥当なのだ」と自分に説明できる状態が、お金の教育において目指したいゴールの一つ。だとすると進学費用も、どんな学びや体験、得られる能力に自分はお金を使いたいのか、明確にしたいですが…。

「案外みんな、進学したい大学の講義内容や、そこで先輩たちがどんな生活をしているかを知らないのでは? そうすると自分の身の回りの偏った世界の中で、ここにお金をかけるのが普通? と判断してしまう。まずはリサーチし、大学生生活の解像度を上げることで、何にお金を使うか、考えられる状態を目指しましょう」

### 例えばこんな対話を…

【理想の著名人から考える】

**親** 憧れる人とか、こういうふうに働きたいって思う人、いる?

**子** ○○さん。

**親** その人はどうやって進路を選んだのかな? どんなことを学生時代に学んで、今の活躍につながっているのかな。

**子** え〜知らない。ちょっと検索してみる。…あ、大学時代に留学してみたい。あと…。

【先輩のリアルな生活から考える】

**親** ○○大学に進学した先輩ってどんな生活してるのか、SNSで検索してみたら?

**子** 「○○大学 ○○学部」で検索すると…外国語の講義が実践的で面白って! 就活でも役に立って書いてある。私も外国語が活かせる仕事に就きたいから、この講義は欠かせないな。あと…。



学びの解像度が上がると判断できる。

# 3

## 「お金がない＝ダメ」と思わない！ 資金のつくり方を話し合う。

足りなくても罪悪感不要。  
頼れることが真の自立！

お金をどこから調達してくるか。非常に難しい問題です。子どもの望む教育機会を奪いたくない、でも実際問題、お金がない…。そんなときはどう対話すれば？

「よく、貯金がない＝だらしない人間、のように、お金の状況と人格を重ねてしまうことがあります。でも、そのお金と人格は別問題。たとえ今、親だけで十分に進学費用を出せない状況だとしても、親として失格では、と罪悪感を覚える必要はないのです。子どもにも率直に話して、どこから資金を調達してくるか、ぎっくばらんに相談したほうが建設的」

奨学金や教育ローンといった選択肢のほかに、家庭によっては頼れる親族がいる、というケースもあるかもしれません。「他人を頼れることは、真の自立とも言える。お金はただのお金です。人格とは切り離し、極力、お金のせいにして話してみてください」

### 例えばこんな対話を…

#### 【家計の状況はオープンに話して】

- 親 進学費用だけど、今、うちにある貯蓄だけでは足りなそうなんだ。
  - 子 えっ！じゃあ進学は諦めたほうがいい？
  - 親 あなたの希望を叶えたいから、どんなふうにも足りないお金を補うか、相談してもいい？
  - 子 いくらくらい足りないの？
  - 親 受験費用と入学料は私たちの貯金から出せる予定。授業料で…ざっと150万くらいかな。
  - 子 お金を補う方法って、どんなのがあるの？奨学金とか？返せるのかな…。
  - 親 一緒に調べてみよう。
- (28ページの「資金のつくり方」の記事を、ぜひ一緒に読んでみてください)



今あんまりお金ないんだ！

お金の状況と人格を切り離す。

### 例えばこんな対話を…

#### 【本来の目的を見失わないように】

- 親 あと150万くらい、用意しなきゃ。
- 子 私が払うよ。最初の2年間くらいがんばってバイトすれば払えるんじゃないかな。バイト掛け持ちして…。できるだけ人に頼りたくないから、自分でまかなう！
- 親 だけど、せっかく進学するのに、それだと支障が出ないかな。いろいろな講義や実習を受けたいから〇〇大学を目指しているのに、バイトばかりだと受けられないかも…。
- 子 確かに…。
- 親 おばあちゃんがいつも気にかけてくれるから、少し話してみようか。
- 子 うん、一緒に相談したい！



バイトですべてまかなうのは、本末転倒？

### 18歳で保護者の同意がなくても契約できるもの

- クレジットカードを作る
- ローンを組む
- 携帯電話の契約
- 一人暮らしのために部屋を借りる
- など

## 18歳から「大人」に。気軽にお金の話ができる関係性を

2022年4月から成年年齢が18歳に引き下げられました。成人になると、親の同意を得なくても、自分の意思でさまざまな契約ができるようになります。また、父母の親権に服さなくなるため、自分の住む場所や進路も自分の意思で決められるようになります。

しかし、契約にまつわるルールやリスクを知らないまま、安易に契約を交わしてしまうと、トラブルに巻き込まれる可能性も。知識の乏しい18歳を狙う、悪質な業者もいるようです。18歳になれば進路だけでなくお金の使い道も自分で決めて、契約まで一人でできるようになる。だからこそ、高校生のうちから気軽に親子でお金の話ができる関係性を築いておくことが、トラブル回避にもつながるはず。2022年から金融教育の授業が始まった高校も多いため、「お金や契約について授業でやった？」などとお子さんに聞きながら、話してみてください。